

出雲大社境内遺跡

～神話に彩られた出雲を代表する神社、
古代祭祀遺跡の側面も～

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 発掘調査報告書
5. アクセス



初版：2025.12.15



参考文献1より抜粋



1. おすすめポイント

★この場所に立つことでしか得られない
「選ばれしこの地」パワーをぜひ感じてみてください

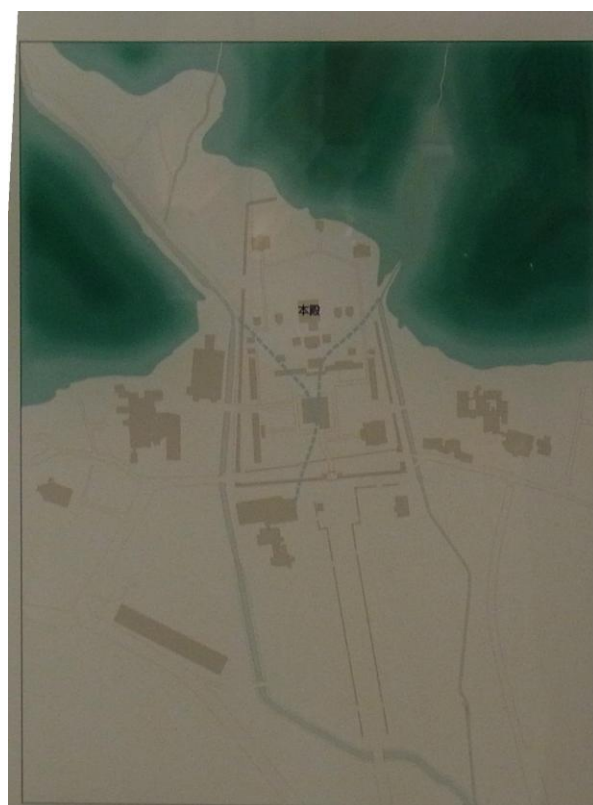
出雲大社のご神徳は言うまでもなく・・・
周りの三山を見渡したあと、社殿がないこの地を
想像して、古代人も感じたであろう霊気、パワーを
感じてみてください

2000年から出雲大社境内で行われた発掘調査で「**3本束ねの柱**」が発見され、「雲太、和二、京三」の口遊（くちずさみ）が現実味を帯びたことは当時大きな話題となりました。一方、**古墳時代前期の祭祀用遺物**が出土し、この地が古くから**祭祀の場**であったことも明らかになりました（**4章**）。縄文土器も出土し、人の活動は太古から見られるものの、祭祀が「いつ頃から」行われたかは残念ながらわかりません。弥生時代の地表面は現地表の約2 m下です。大社の境内は正に「祭祀のタイムカプセル」です。

大社町教育委員会作成のパンフレット（**参考文献1**）に発掘の成果が解りやすく紹介されていますので是非ご覧ください（HPからダウンロードできます）。

【川合の地】

現在も社殿の東を素鷲川、西を吉野川が流れていて南側で合流しており、境内は「川合の地」になっていますが、古代は現境内の**更に中心側で川合**となっていたことが発掘調査で分かったとのことです（**下図**）。川合の地は古代の人々にとって特別な場所であったようで多くの神社がそのような場所に鎮まっています（有名なところでは京都の下鴨神社、河合神社）。



■現在の境内図

水色の破線は、発掘調査の成果などから推定される古代以前の川の流れです。かつての鎮座地は、背後に八雲山をおおぎ2本の川がYの字形に合流する地にあったと想像されます。

神坐す処 — 鎮座地周辺の環境 —

出雲大社は、その三方を山々が囲み、2つの小さな川が東西を南流するやや開けた谷間に鎮座しています。地下水が豊富で、古い神社によくみられる、背後に山をおおぐ水源の地、川合の地といえます。近年の地質調査などによると、古代には潟湖が近くに広がり、良好な港も存在していたと推測されます。真名井遺跡や境内遺跡出土の祭祀関連遺物などから、この周辺がおおよそ弥生時代以来の祭祀と交流の場所であった可能性は高いでしょう。



■古代の出雲平野と出雲大社の立地

【御神体山としての八雲山（蛇山）】

拝殿付近から見ると、左（西）に鶴山、正面（本殿背後、北）に八雲山（蛇山）、そして右（東）に亀山が絶妙にこの地を囲んでおり、背後から「気」が集中してくるような「特別な地」であることがよくわかります。この三山、実際には単独の山ではなく、それぞれ山から伸びた尾根の先端で麓から見ると単独の山に見えているわけです（3章）。この地に立つことでしか感じられない霊気、パワーを感じます。

特に正面の八雲山（蛇山）は山容が美しく、慶長14年遷宮の図（4-7）ではことさらに念入りに描かれています。御神体山とされているのも頷けます。

【素鷲社（そがのやしろ）と岩の露頭】

本殿の背後、八雲山（蛇山）に接するように素鷲社が鎮まっています。素鷲社の背後には岩の露頭（2-3）があり、御神体山ゆえに禁足地の八雲山に「触れる」ことができる貴重な場所として、いつの頃からかパワースポットブームに乗って多くの参拝客がここを通り、「触れて」、「祈って」ゆかれます。正に「現代の磐座」になっています。

この岩の露頭が古代から「磐座」として祭祀の場であったかはわかりません。1667年の寛文の遷宮までこの地には北島家の邸宅があった（4-2）ので少なくとも一般の人が近づける場所ではなかったようです。ひょっとすると北島家が私的に奉斎していたかもしれません（岩をというより八雲山（蛇山）を）。

この地に素鷲社が造られたのは1774年の延享の遷宮以降だと考えますが、背後の岩の露頭を意識したのは間違いないように思います。近くの法面には他にも岩の露頭がありますが、ここが飛びぬけて美しく保たれています。「磐座（あるいは御神体山）の前に社」の古社典型形式の一つと呼べるのかもしれませんが。

素鷲社の基壇を見ると、2代に分けて築かれているようです（1段目と2段目で向きが微妙に異なり、使用している石の大きさも異なる）。どのような経緯で現在のお姿になったのか気になります。

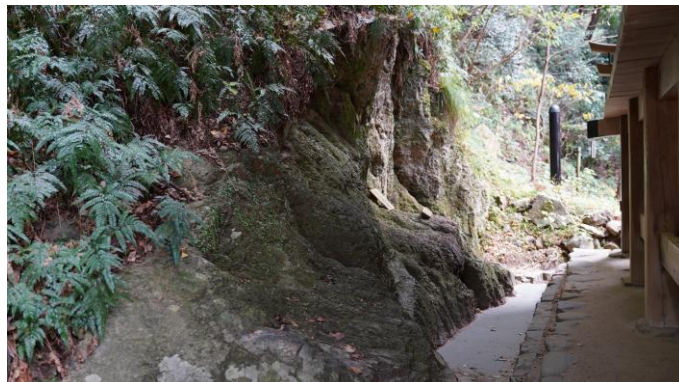
2020.6.30

2025.12.9



2-2

素鷲社



2-3

素鷲社背後の岩の露頭

3. 現地写真

八雲山（蛇山）



拝殿左（西）から本殿方向（北）を望む

2020.6.30

鶴山



八足門右（東）から西を望む

2025.12.9

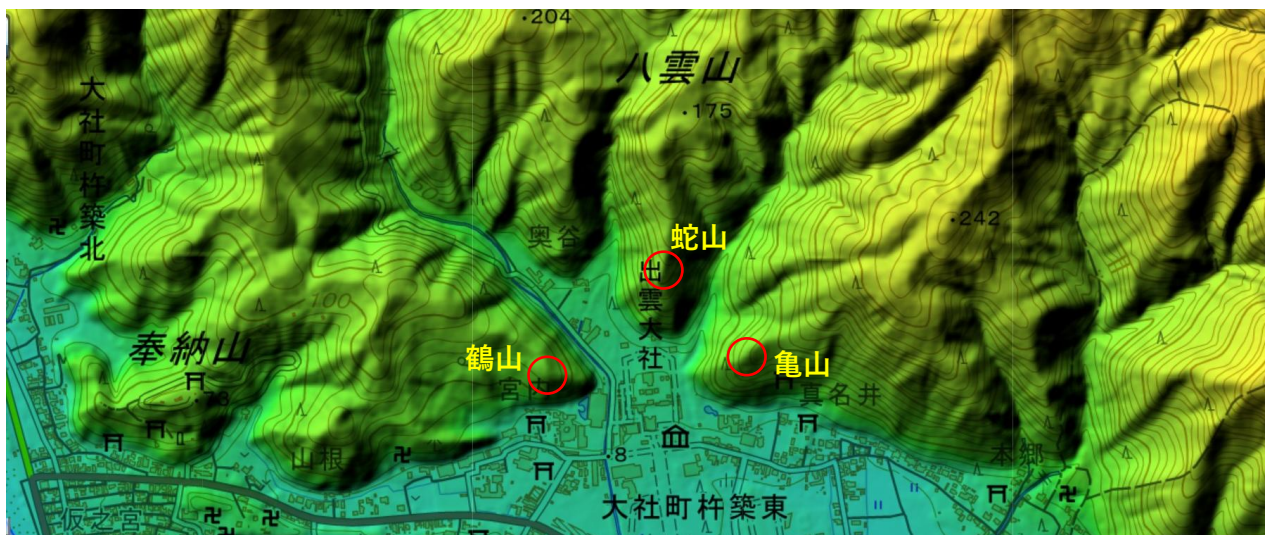
亀山

八雲山（蛇山）



拝殿左（西）から北東を望む

3-3



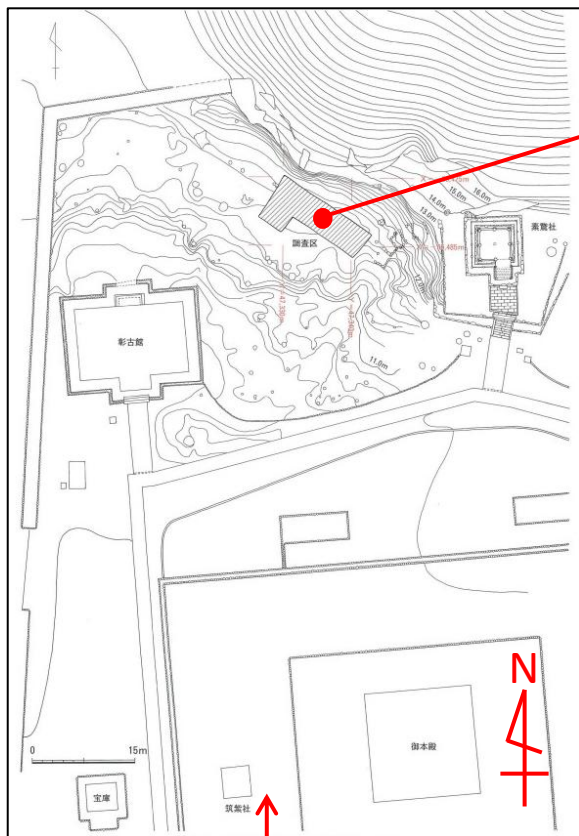
3-4

地理院地図に赤黄で追記

©2025 吉備鳥瞰 All Rights Reserved

4. 発掘調査報告書（参考文献2）より

※特記なきものは参考文献2より引用

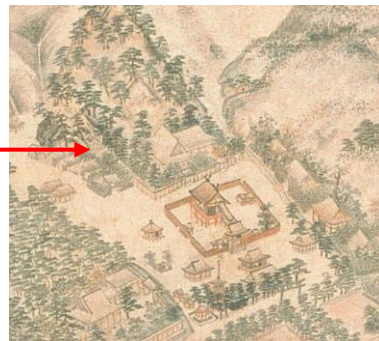


4-1

P228からの抜粋に赤で追記

【彰古館北の調査】

ここには近世前期
(1667年寛文度造営時)
まで北島家邸宅があった



4-2

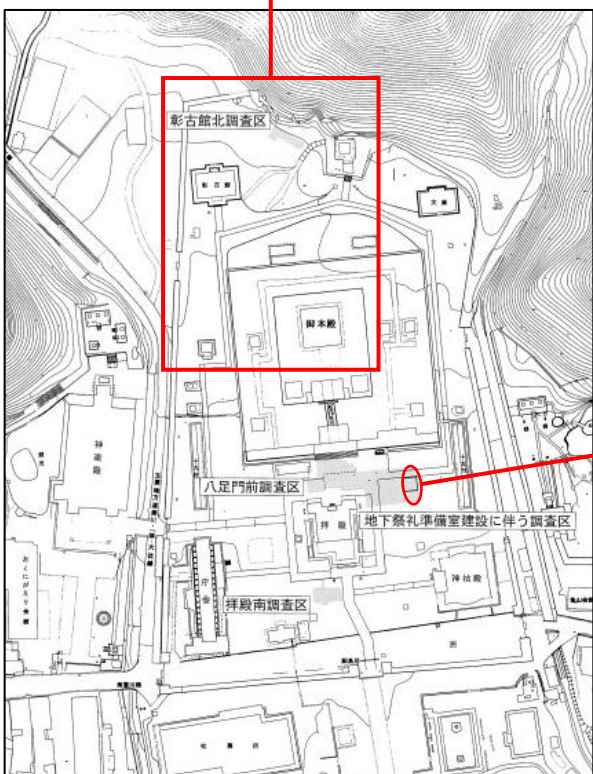
1609年（慶長14年）仮殿式遷宮の図
巻頭図版7より抜粋

- ・縄文晩期の土器が出土
- ・土師質土器の柱状高台付杯が破片含め35点出土、背後の八雲山から転落してきた遺物である可能性

【八足門前の調査】

- ・古墳前期の勾玉・白玉・手捏ね土器といった祭祀系遺物が遺構に伴って出土
- ・人為的に火が焚かれていた痕跡を確認

開放状態で火を焚いた跡



4-3

P76からの抜粋に赤で追記



4-4

P102からの抜粋
に赤で追記

古墳時代

(前期)

今から約1700年まえ

祭祀用の土器片とまが玉2個、白玉12個が出土



まが玉・白玉

4-5

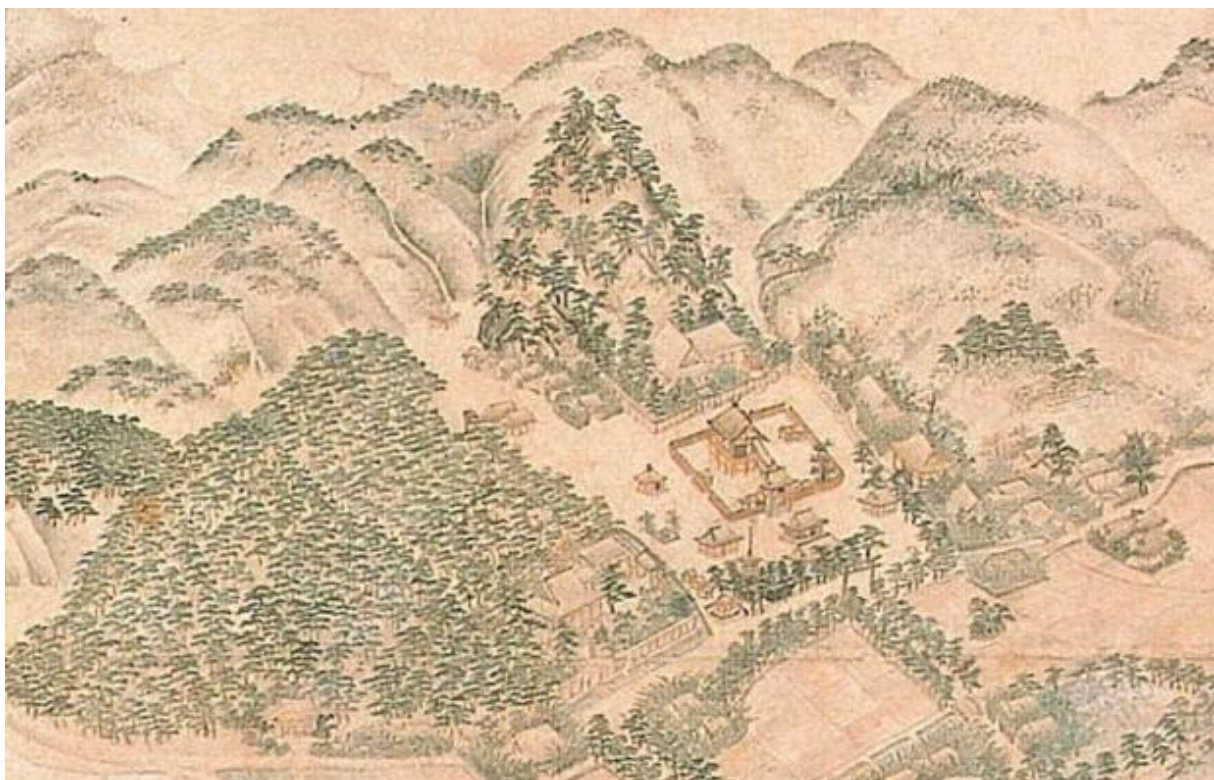
参考文献1より抜粋



4-6

1248年（宝治2年）正殿式遷宮の頃を描いたと思われる図

巻頭図版6より抜粋



4-7

1609年（慶長14年）仮殿式遷宮の図

巻頭図版7より抜粋

有名観光地ですので割愛させていただきます

参考文献・資料

1) 出雲大社境内遺跡パンフレット. 大社町教育委員会, 2001, 8p.

～出雲弥生の森博物館殿より提供頂きました～

※ダウンロードできるようにしていますのでご活用ください。

2) 出雲大社境内遺跡. 大社町教育委員会, 2004, 507p.

※発掘調査報告書